



白堜

はくあ 第18号 令和7年12月19日発行



《受験／冬季休業に向けて》

12月24日(水)から1月12日(月)までの20日間は冬季休業になります。1ヶ月以上もあった夏季休業に比べると決して長くはありませんが、目的を持って計画的に過ごして有意義な時間にしてください。3年生は受験本番直前の大切な時期となり、気を引き締めて緊張感を持って過ごしていると思いますが、1・2年生にとっても決して気楽に過ごせるような時期ではなく、それぞれに今だからこそ取り組むべき課題があります。各学年別に冬季休業中に取り組んでほしい内容をまとめたので、しっかりと読んで心に留めて実践してください。

【3年生】出願プラン確定と共通テストに集中

3年生は今、1月17日(土)・18日(日)の大学入学共通テストに向けて猛勉強の最中であり、同時に大学の出願プランを最終的に詰めている段階だと思います。国公立大学であれば前期・後期(公立中期)の出願組み合わせを共通テストの得点状況に合わせて2~3種類を考えておく必要があります。私立大学については併願・専願を問わず、試験日程・方式を吟味し出願数をプランニングする必要があります。受験料や交通費・宿泊費、受験日程に無理がないかなど、保護者やHR担当と共に考えて確認すべきことがたくさんあります。私立大学については出願受け付け時期が年内で締め切る方式もありますので、学生募集要項を隅々まで確認してください。

大学入試はまさに体力勝負で、受験本番まではいかに体調を維持できるかがカギを握ります。残された時間が少ないので、焦って無理な学習計画を立てたり、睡眠を削って学習時間を捻出したり、生活リズムを乱すことは慎んでください。冬季休業中も計画的で規則正しい生活を心がけ、心身共に健康な毎日を送りましょう。

どれだけ高い能力を持っている人でも、体調が悪ければベストパフォーマンスは發揮できません。残り短い期間ですが、栄冠めざして最後まで全力で走り抜いてほしいと思います。



【2年生】受験生としての覚悟と戦略

2年生は楽しかった修学旅行も無事に終了したので、いよいよ「受験生」モードに突入の時期になりました。第一志望の大学を見定めて、最後までその意志を貫く覚悟を決める時期もあります。また受験方式についても考える必要があり、これまでの高校生活を振り返って自己分析を行い、一般選抜で受験するのか、それとも学校推薦型選抜や総合型選抜で受験するのか、自分に向いている真剣に考えなければなりません。つまり「覚悟と戦略」が年末年始のキーワードです。

冬季休業明けには、進路指導部の教員による個別面談を予定しています。医学科と最難関大学の志望者には一足早く年内中に面談を行いましたが、進路目標を自分の言葉でしっかりと説明できる生徒は多くありませんでした。まだまだ「本気度が足りない」というのが正直な感想です。3年生になってから慌てても、「チャンス」も「時間」も極めて少なく苦労することは目に見えています。まだ若干の余裕のある今だからこそ、「受験生」としての生活をスタートさせましょう。

【1年生】自分を振り返り鍛えて伸ばす冬

1年生が冬季休業中に取り組むことは、これまでの学習方法の見直しです。部活動が比較的落ち着いているこの時期だからこそ、〈予習〉⇒〈授業〉⇒〈復習〉の学習サイクルがきちんと定着しているか、地道な努力の積み重ねにより基礎学力の定着を徹底できているか振り返ってみてください。また、不得意科目の補強にも重点的に取り組むことも必要です。授業が進まない休業中を有効に活用して、自身の学習課題と向き合ってください。

他にも、普段の学校生活では参加できない各種セミナーーやガイダンス等の校外活動は、長期休業中でなければできません。そこで学びや経験が、後で学校推薦型選抜や総合型選抜での受験に繋がることが多くあります。

1年生のうちからアンテナを高くして、興味・関心のある分野に積極的に取り組んでみましょう。学力以外にも伸ばすべき能力はたくさんありますし、それらが将来の自分の可能性を拓げてくれますよ。

〈大学について学ぼう④ ST比〉

大学で何を学びたいのか、入試のレベルや学費はどれくらいなのかなどと、大学選びにはさまざまな観点があります。その中の指標の一つに「ST比」というものがあります。「ST比」とは「Student-Teacher 比率」の略で、これは教員1人あたりの学生数を示しており、ざっくり言えば「1人の教員が何人の学生をみているか」という目安になります。一般的にはST比が低いほど、教員1人あたりの学生数が少なく、きめ細やかな教育が受けられる良い環境だと評価されています。

【ST比の算出方法】

ST比の算出方法は、以下の式で表されます。

$$\text{ST比} = \text{学生総数} \div \text{専任教員数}$$

ST比の正確な定義は大学によって多少異なり、教員の範囲（専任教員のみか、特任や客員教員も含むか）や学生数のカウント方法（実数か定員ベースか）に揺らぎがあります。専任教員の数は、大学設置基準の中で「学部の種類や規模に応じて」必要数は定められています。大講義室を利用した授業が多いなどの理由で、文系の学部では必要とされる専任教員の数が理系の学部よりも少なく定められています。実験や演習なお少人数の授業が多い理系の学部、中でも医学・歯学・薬学・獣医学系の学部は、必要とされる専任教員数が多くなります。学部の系統によって求められる専任教員の数は異なっているので、各大学の学部構成も踏まえて、この数値を参考にしてください。また、ST比を調べる際には、どのような基準で算出されたものなのかを確認することが重要です。特に、大学ランキングなどでは独自のデータ定義が用いられていることがあるので注意が必要です。

【ST比と教育の質】

ST比が低いと、学生一人ひとりに手厚い指導が行き届く可能性が高く、教育の質が高いと考えることができます。国公立大学は私立大学に比べてST比が小さい傾向にあります。（実数を用いる場合、定員割れしている大学ではST比が低くなる傾向があります）。逆にST比が高いと教員あたりの負担が増え、少人数教育が難しい状況を示すことがあります。文系中心の大学では、専攻の性質上ST比が高くなる傾向がありますが、あまりに高すぎると教育の質に疑問符がつくこともあります。

◆主な大学の教員一人あたり学生数

国…国立大 公…公立大 私…私立大

大学	学生総数	専任教員数	ST比
国 北海道大学	11,365	1,955	5.8
国 弘前大学	6,013	581	10.3
国 岩手大学	4,619	348	13.3
国 東北大学	10,733	1,657	6.5
国 山形大学	7,350	605	12.1
国 筑波大学	9,573	1,590	6.0
国 千葉大学	10,450	826	12.7
国 東京大学	14,074	3,940	3.6
国 横浜国立大学	7,409	473	15.7
国 新潟大学	9,980	538	18.6
国 名古屋大学	9,524	1,370	7.0
国 京都大学	12,721	1,834	6.9
国 大阪大学	15,111	3,309	4.6
国 神戸大学	11,543	1,120	10.3
国 九州大学	11,687	1,910	6.1
公 青森県立保健大学	908	99	9.2
公 青森公立大学	1,257	43	29.2
公 東京都立大学	6,935	639	10.9
公 横浜市立大学	4,309	403	10.7
公 大阪公立大学	12,384	1,328	9.3
私 青山学院大学	20,051	581	34.5
私 慶應義塾大学	28,839	1,743	16.5
私 中央大学	26,381	672	39.3
私 東京理科大学	16,967	739	23.0
私 東洋大学	31,494	800	39.4
私 日本大学	67,285	2,469	27.3
私 法政大学	29,784	679	43.9
私 明治大学	33,462	890	37.6
私 立教大学	20,186	608	33.2
私 早稲田大学	38,278	1,339	28.6
私 同志社大学	26,853	746	36.0
私 立命館大学	34,883	1,274	27.4
私 関西大学	28,492	763	37.3
私 関西学院大学	24,784	632	39.2

※学生総数は外国人学生（短期留学生以外）も含まれる。

専任教員数は学部に所属する専任教員の数で、助手は含まない。

【旺文社 2026年度用「大学の実力 情報公開BOOK」より引用】

大学間でST比を比較する場合は、学部の系統や大学の規模を考慮して行う必要があります。また、ST比のみで大学の評判や教育の質をすべて判断することはできないので、授業形態ごとの履修者数など、少人数教育の実態を測るにはST比以外の指標も考慮する必要があります。先生と近い距離で、きめ細かい指導を受けたいのであれば、少人数制授業の実施状況を大学案内やホームページなどで確認することをおすすめします。